Bゼミ　　2020/05/22 古澤

序章

前史
p.15-42

第Ⅰ部　コニーアイランド－空想世界のテクノロジー

第Ⅱ部　ユートピアの二重の生活－摩天楼

第Ⅲ部　完璧さはどこまで完璧でありうるか－ロックフェラー・センターの創造

第Ⅳ部　用心シロ！ダリとルコルビジェがニューヨークを征服する

第Ⅴ部　死シテノチ（ポストモルテム）

補遺　虚構としての結論

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト

コロニー

予言

報告書

偶像

絨毯

タワー

球体

コントラスト

全体　要約

マンハッタンは都市にグリッドを引くことによって、人々の経済活動を活発化させ、長期的成長を促すシステムである。オランダ人が先住民を根絶やしにし、ヨーロッパのユートピアを求めて形成していった。その結果、都市は構造物としての摩天楼に様々なプログラムが内包される、見た目は単一、中身は混沌とした社会が形成されるようになった。

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム　洗練に屈服する野蛮
p.17-20

プロジェクト

コロニー

予言

報告書

偶像

絨毯

タワー

球体

コントラスト

マンハッタン島にはもともと森の中に住む自然児が先住民として存在した。マンハッタンのプログラムとは、これら「野蛮人」がヨーロッパから新大陸を求めてやってきた「洗練」を強行し先住民を絶滅させようとする力に伏していく、土着の種族が根絶されていくストーリーである。

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト　ユートピアとしてのヨーロッパ
p.20-22

コロニー

予言

報告書

偶像

絨毯

タワー

球体

コントラスト

マンハッタンは、ヨーロッパで理想とされていた要素がすべて詰まった場所である。地図を見ればヨーロッパを写し取ったかのような都市の姿をしているが、唯一の違いは、それらの要素がヨーロッパというコンテクストから独立しているために、一つ一つが際立って新しい全体をつくっていることである。

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト

コロニー　アムステルダムの移植

p.23-24

予言

報告書

偶像

絨毯

タワー

球体

コントラスト

オランダ人は自分たちの都合のいいように先住民を取り扱い、何も問題がないかのように、自国と同じような都市を設計する。マンハッタンは、先住民などいなかったかのように「発見」され、オランダ人はその土地の所有者でないものをインディアンとしてでっちあげ、マンハッタン島を買い取ったのである。

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト

コロニー

予言　グリッドは恒常的成長を生む
p.24-26

報告書

偶像

絨毯

タワー

球体

コントラスト

マンハッタンは都市にグリッドを敷いた。これにより、土地や人・建物は流動的になり、長期的に見て土地は所有者を持たず、人々の群れや建物は常に変化し続け、恒常的成長がのぞめる都市となった。

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト

コロニー

予言

報告書　　経済至上主義

p.27-30

偶像

絨毯

タワー

球体

コントラスト

マンハッタンのグリッドは、見かけ上の形態的特徴よりむしろ、それに内包される競争社会を促すプログラムが戦略として描かれている。
人々は限られたブロック内で自分の意図を表現しなければならないのである。

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト

コロニー

予言

報告書

偶像　マンハッタンへの期待

p.30-31

絨毯

タワー

球体

コントラスト

マンハッタンは市民のあこがれのまちへとなっていく。

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト

コロニー

予言

報告書

偶像

絨毯　計算されつくした人口の緑

p.31-33

タワー

球体

コントラスト

マンハッタンに絨毯のように敷かれたセントラルパークは、自然をそれまでのコンテクストから切り取り、再構成することでつくられ、それに手を付けないことで自然の保護につなげている。この変わることのない自然の景色は、変化し続ける建築の背景となることで、人々の心理的価値として認識される。

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト

コロニー

予言

報告書

偶像

絨毯

タワー　高さへの意識

p.33-37

球体

コントラスト

高い場所に住めるようになれば、住民は島全体を見渡せるようになり、「量」としての都市の発展の限界を認識する。「量」としての発展が制限された状態での競争社会は「質」を競い合うよりほかなく、各人の「自我」が建物の表層に誇張される。

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト

コロニー

予言

報告書

偶像

絨毯

タワー

球体　独創的な発明と、可能性≒０の災厄

p.37-39

コントラスト

博覧会の水晶宮のドームの中で披露された新しい技術と発明のシステムはマンハッタンを構成していく。しかし、独創性的な発明は常に失敗という側面を持っている。そのためマンハッタンは失敗という可能性を集めた災厄の倉庫ともいえる。

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト

コロニー

予言

報告書

偶像

絨毯

タワー

球体

「針」と「球」。「針」は内部を持たない構造物をさし、、「球」は内部に物や人など、何もかもを共生させる収容力をもつ。これらはマンハッタンの摩天楼とその中に入るプロプラムを指し、マンハッタンはこの二つの形態が繰り返しつくられる混成物である。

コントラスト　構造体と、その内部での共存

p.39-41

前史　マンハッタンの形成と性質

プログラム

プロジェクト

コロニー

予言

報告書

偶像

絨毯

タワー

球体

コントラスト

議題

1. マンハッタンがモデルとなり、ジェネリックな都市として、「単一なハコと様々なプログラム」という形態が各国で見られるが、改めて、これらシステムのメリット・デメリットとは何だろうか。
2. 都市を形成していく過程で、表向きの主張と裏向きの主張という二面性がみられた。現代、covid19により様々な都市の在り方が議論されているが、これからの都市像とはどのようなもので、それをつくるにあたって、どういう二面性が考えられるだろうか。